

# かほだより

## 予断を許さない豚流行性下痢

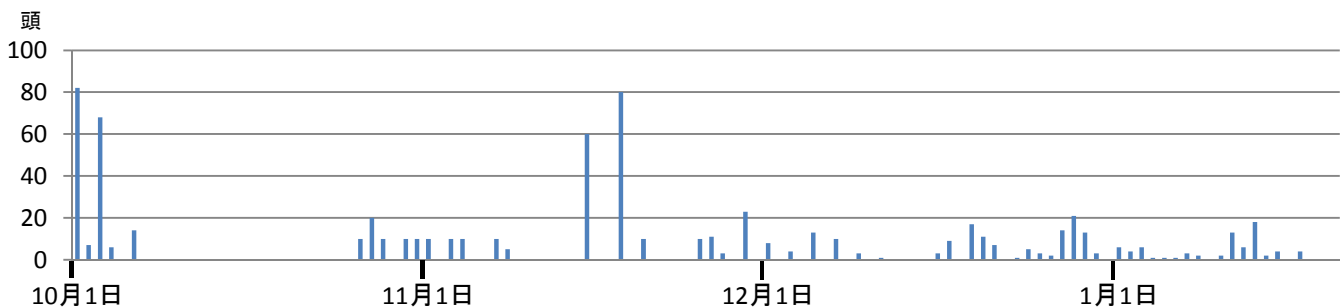
(一度侵入させると清浄化がむずかしく経済的被害は甚大)

豚流行性下痢 (以下 P E D という。) の最近の発生状況については、平成27年 1 月21日 付け「長野県畜産広報No238号」でお知らせしたとおり、流行期の冬場に入り再発及び新たな発生が全国的に見られています。

当所管内で昨年 5 月に発生が確認された 2 農場については、8 月に一旦は沈静化が認められたものの、1 農場については P E D ウイルスが農場内で常在化し、気温が低下した 10 月以降 P E D による子豚の散発的な死亡が継続しています。

農場管理者及び食肉処理関係者等による懸命な感染拡大防止対策が継続されていますが、それぞれの農場におかれましても侵入防止対策の徹底と万一侵入した場合に被害を最小限にするための母豚への適正なワクチン接種をお願いします。

### 1 管内初発農場の 9 月以降の P E D による子豚の死亡状況 (予防的淘汰含む)



1 月20日現在、9 月30日以降の延べ死亡頭数：700頭

\* 初発時は繁殖豚、肥育豚を含めた全ての豚が発症したが、今回はほ乳豚(分娩豚舎)のみ

### 2 発症防止のため管内初発農場でとられている対策

#### (1) 農場内ウイルス量を減らす

- 虚弱、自力哺乳不可能、痩せる等今後 P E D の発症が疑われる子豚の予防的淘汰
- 分娩豚舎及び豚房の消毒の徹底 (水洗→乾燥→逆性石鹼→乾燥→石灰)

#### (2) 発症を防ぐ

- 初産\*の母豚にはワクチンを 4 回打ち (種付け前に 2 回、分娩前 5 週、2 週)
- 初産の産子は初乳を授乳後に里子

\* 初産の母豚は、過去に P E D による下痢を発症しておらず P E D 抗体価が低く、また分娩直後の泌乳能力が低いことにより、子豚が乳からの免疫を十分に獲得できないことが懸念される

#### (3) 他の農場への感染拡大防止

- 農場内の交差汚染防止対策 (分娩豚舎の管理 (管理者及び器具等) を区別して管理)
- 出荷豚の洗浄とヨード剤による消毒
- 出荷用車両の消毒
- 食肉処理施設における交差汚染防止対策
  - ・搬入日・搬入時間を限定 (他の農場と交差させない)
  - ・車両及び施設の消毒の徹底 等

韓国他東アジアを中心に継続的に口蹄疫の発生が確認されています。十分にご留意願います

問い合わせ先：防 疫 課 宮澤、川島 (担当)

